

コード No. 28061

**Anti-Human  
CD109 (1383) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : CD109 は分子量約 180-190 kDa、GPI アンカー結合型の糖タンパク質です。血管内皮細胞や一部の上皮細胞のほか、活性化した T 細胞や血小板、巨核球性白血病細胞 CD34+細胞のサブセットに発現することが示されています。この CD109 分子は KG1a 細胞に強く発現しており、一方で胎児骨髄の CD34+CD109+細胞は、骨髄系、赤芽球系、巨核球系のほぼすべての前駆細胞を含んでいます。そしてこのことから CD109 分子は巨核球系の造血初期マーカーであると考えられています。また、構造および血清学的な特徴から、CD109 分子は既存の白血球や血小板の活性化マーカー分子とは異なるものと考えられています。

高橋らの報告によると、CD109 分子は肺がん、食道がん、子宮頸がんなどの扁平上皮がんにおいて、他の組織型よりも有意に高発現しており、扁平上皮がんの研究において注目されています。

免疫抗原 : Human CD109 の部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~5 µg/mL にて使用可能 (マイクロウェーブ処理)

ウエスタンブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

免疫沈降法 5 µg/test にて使用可能

- 参考文献 : 1. Hasegawa M, Moritani S, Murakumo Y, Sato T, Hagiwara S, Suzuki C, Mii S, Jijiwa M, Enomoto A, Asai N, Ichihara S, Takahashi M. CD109 expression in basal-like breast carcinoma. *Pathol Int.* 2008 May;58(5):288-94.
2. Sato T, Murakumo Y, Hagiwara S, Jijiwa M, Suzuki C, Yatabe Y, Takahashi M. High-level expression of CD109 is frequently detected in lung squamous cell carcinomas. *Pathol Int.* 2007 Nov;57(11):719-24.
3. Hasegawa M, Hagiwara S, Sato T, Jijiwa M, Murakumo Y, Maeda M, Moritani S, Ichihara S, Takahashi M. CD109, a new marker for myoepithelial cells of mammary, salivary, and lacrimal glands and prostate basal cells. *Pathol Int.* 2007 May;57(5):245-50.
4. Zhang JM, Hashimoto M, Kawai K, Murakumo Y, Sato T, Ichihara M, Nakamura S, Takahashi M. CD109 expression in squamous cell carcinoma of the uterine cervix. *Pathol Int.* 2005 Apr;55(4):165-9.
5. Hashimoto M, Ichihara M, Watanabe T, Kawai K, Koshikawa K, Yuasa N, Takahashi T, Yatabe Y, Murakumo Y, Zhang JM, Nimura Y, Takahashi M. Expression of CD109 in human cancer. *Oncogene.* 2004 Apr 29;23(20):3716-20.